

J.PIAGET



Geant de la psychologie du xxe siècle ,fondateur de l'épistémologie génétique

7月24日25日 Summer Seminar 2014

第18回夏季研修会 会報誌 主催：日本ピアジェ会 後援：株式会社メイト



C O N T E N T S

「スイスと日本の150年」

スイス名誉総領事 ティーター・ソンマ・ハルダー P3

『ピアジェと特別教育』

斎藤 法子・・・・・・・・・P5

ペタペタシール遊び実践発表について

助言者 大石 富士子・・・・・・P8

ぺたぺたシールあそび実践発表

あおば幼稚園 年長単元 「なぜ、そうなるの？」
 誠心第一幼稚園年長単元 「むしのおみせやさん」
 遊々保育園 年長単元 「みつばちジュースはいかが？」
 鴻池学園幼稚園年中単元 「おまつりひろば」
 ・ ・ P9

文学紀行No.29

「くるまがすき！」 石川晴子 ・ ・ P13



スイスと日本の150年

スイス名誉総領事

ディーター・ソンマ・ハルダー

本日は2つの点についてご紹介いたします。まず、一つ目は日本とスイスとの交流の歴史についてです。もうひとつは、スイスの教育システムについて、特に直面している課題についてお話いたします。

日本とスイスとの交流の歴史

日本とスイスは今年国交150年を迎えました。これを祝って現在、日本、スイス両国で様々な催しが行われています。さて、スイスと日本は江戸時代の1864年通商交渉条約をむすんだ時に国交が樹立しましたが、国交樹立以前より、両国の交流がありました。当時の西洋との唯一の玄関口であった長崎が非常に大きな役割を果たしており、知識人との交流の場でもあったからです。

次の地図はスイスのルツェルンで生まれた、レンヴァルト・ツイザトが1586年に作成したものです。当時のヨーロッパで作られたの最も詳細な長崎の地図です。



レンヴァルト・ツイザト作成の日本地図 (1586年)

当時の日本には、イエズス会士が九州を拠点として活動していました。彼らから知識を得たツイザトが、一度も日本に訪れたことがないにも関わらず、当時の西洋で最も詳細な地図を完成させたのです。完全に正確な地図ではありませんが、現代のような情報網がない中、実に驚くべきことだといえます。

日本に最初に到着したスイス人は東インド会社の兵士として雇われていたフリムール出身のリュボンという人物です。1623年に長崎に到着した彼は大阪まで足を伸ばし、詳細な旅の記録を綴っています。日本が1630年からの鎖国政策に入る前に入国した数少ない西洋人の一人でした。

2人目に入国したスイス人がヨハン・カスパール・ホルナー氏です。1804年に長崎に到達しました。彼は鎖国中の日本と通商条約を結ぼうと、ロシアの船団とともに、日本へ7ヶ月間滞在しました。通商条約は締結できませんでしたが、ホルナーは元々自然科学者であったため、日本の動植物を観察し、記録することが出来ました。今から10年前にこのホルナーの描いた長崎の水彩画がチューリッヒで再発見されました。長崎の出島を描いたものです。



出島の水彩画 (1805)

スイス人がその後日本に入国した資料はありませんが、その時期以降もオランダを通じて、時計、繊維製品を輸出をしていました。スイスは自国の市場が非常に小さいために、他国とより良い関係を築き、他国の市場を開拓していく必要があったのです。

そして、1864年になると、スイスの時計業組合の総裁エメエ・アンペール氏が日本と最初の通商条約を結びました。現在の日本とスイスとの礎を築いた人物です。著書の「図解日本」では長崎の詳細が紹介されています。

教育制度について (多言語・連邦制度)

スイスでは就学前教育から、大学・職業訓練校(高等教育)については、行政が担っており、26の州と連邦政府とが双方請け負っています。州とその地方自治体が費用の80パーセントを負担してい

ます。義務教育については公立学校が95パーセント、私立学校が5パーセントという割合です。多くの文化的背景、言語を持った子どもたちは、地域のそれぞれの実情に合わせて教育をうけています。

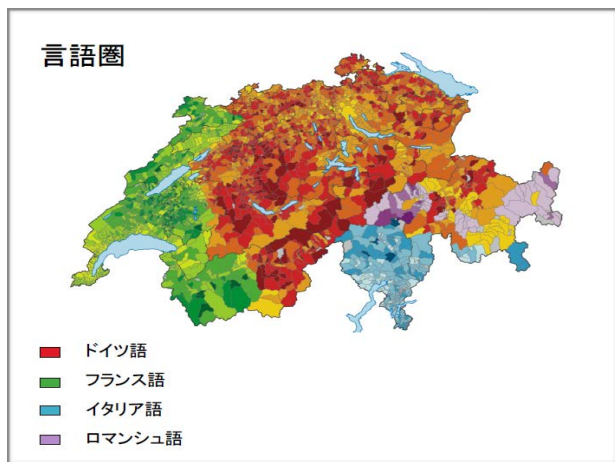
スイスは移民政策を実施しているため、外国人の比率が高く、全国平均22パーセントが外国籍の住民であり、6歳以下に限っていえば、26パーセントにも達します。学校では、この多国籍多言語の子どもたちを如何に教育内容を理解し、学んでいけるかが課題となります。例えば、1学級の80パーセントの子ども達が他言語を話し、7カ国語の異なる言語が飛び交う中でコミュニケーションをどう図って教育していくかを想像してみてください。大変難しい課題ですが、現在のスイスではごく当たり前の状況になっています。

さて、就学前教育については、現在26州の内、14の州で義務教育となっており、期間は1年保育、もしくは2年の保育となっています。いずれは、すべての州で義務化される予定です。スイスの公用語はドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の4カ国語です。学校では、母語以外に2つの言語を選択して学ぶことが必修です。スイスでの4カ国語のいずれかと、英語です。

きます。しかし昨今は第二言語に英語を学ぶ地域もあるようで、母国での公用語を優先すべきとの議論がされています。

さて、スイスの義務教育は就学前と初等教育を合わせて8年間、その後中等教育を3年間含め、計11年間です。その義務教育後は、各州が責任をもって、地域の特性に合わせて教育プログラムを実施します。また、ヨーロッパ諸国と比較して大学への進学率が低いですが、これは職業訓練校、見習い期間という独自の制度があるためです。そこで学んでから、大学へ進学する人も少なくありません。一番の特徴は、様々なコースの変更が容易であり、一旦決めたコースでも途中で変更することができるとのことです。これは他国には見られないスイスにおける特徴的な制度だといえます。

スイスの教育制度は非常に複雑なので、すべてはご紹介できませんが、今回は日本とスイスとの国交150年を記念して、歴史と教育をご紹介致しました。



スイスの言語圏

6割の地域がドイツ語圏、2割がフランス語、1割がイタリア語とロマンシュ語となります。例えばドイツ語圏に生まれると、学校ではまず標準ドイツ語を学びます。次に第二言語としてフランス語を学び、最後に英語を学ぶという順序で進んでい

ピアジェと特別教育

カリフォルニア州立大学院名誉教授

斎藤 法子

今回のテーマは特別教育についてです。前回の復習をしながら、このテーマをみていきましょう。

さて、まずは前回の概要ですが、幼稚園・保育園の先生は子どもがどのように発達していくか、その発達段階を知る必要があります。生後生まれてからはじまる感覚運動期の時代から頭の中で弾力的に思考できる形式的操作期までの段階です。暗記型の教育はすぐに忘れますが、この発達段階に沿って認識したものは忘れることなく、また、発達が逆戻りすることがありません。段階に応じた子どもが従事できる保育が大切です。また、どの子どもも知的好奇心を持って生まれてきます。子どもに耳を傾け、子どもを理解して、子どもの発達に応じて保育環境を整えていきましょう。それでは、今回のテーマ「特別教育」についてみていきましょう。

特別教育

発達に問題のある子どもに対して、医学界では、診断の際に障害という言葉を使います。しかし教育の分野で、障害児教育という言葉を使うのは不適切でしょう。現にアメリカの教育界では「チャレンジ教育」という言葉を使用しています。他の子よりもチャレンジすることが多いのでこのように呼ばれています。

チャレンジ教育の子どもたちですが、障害の原因は大きく3つの分かれます。「遺伝性疾患、染色体異常、環境要因」です。以下に分類してみます。

遺伝性疾患

○自閉症

- ・アスペルガー症 (Asperger Syndrome)
- ・フラジャイルX症 (Fragile X Syndrome)
- ・ソトス症 (Sotos Syndrome)

○レッツ症 (Retts Syndrome)

○脳パッシー (Cerebral Palsy)

染色体異常

○ダウン症 (Down Syndrome)

○プラダー・ウィリー症 (Prader-Willi Syndrome)

○ウィリアムズ症 (Williams Syndrome)

○脳の癌 (Neurofibromatosis)

環境要因

○多動性障害 (Attention Deficit Hyperactivity Disorder) ※理由は現在不明だが環境も要因とされている

○胎児性アルコール障害 (Fetal Alcohol, Drug Syndrome)

その他事故や病気による

○脳損障害 (Acquired Brain Injury)

○発作性疾患 (Seizure Disorder)

○視覚、聴覚障害 (Visual / Hearing Losses)

等があげられます。



上記の障害の特徴は、いずれか一つだけではなく、重なって起こることが多く、例えば、自閉的な傾向がありADHDであったりです。これらの子どもは軽度、中度、重度とそれぞれ症状も異なり、主に認知の発達、言葉の発達、運動機能、社会的な交流、身体的な特徴、神経の問題のいずれかを抱えています。

アメリカでは、生まれてくる子にどのような遺伝の影響が出るのかを調べる「遺伝子のカウンセリング」や「羊水検査」があります。もちろん、これらですべての問題を発見することはできません。一見他の健常児と同じ外見であっても、自閉的な傾向を持っていたり、ダウン症のように身体的な特徴で発見できるものもあります。

教諭の役割

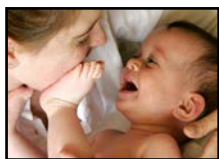


教諭や保育士は正常な発達と比較し、障害を早期に発見して、対策をとることが必要となります。保護者とも連携する必要があります。親であれば、誰しも子どもの健康を考えることでしょう。そのような中、子どもの障害を知った保護者は素直に受け入れ難い状況に陥ります。やがてその気持ちが怒りとなることもあります。また、自分自身を責める罪の意識にかられ、時間とともに障害について認めていくようになります。

教諭はこれら保護者の気持ちが理解することが大切です。そして、園長先生や心理学者、医師とも連携し、運動的な治療や、食べ方や衣服の着脱等の日々の活動の仕方（作業治療）、音楽治療等を取り入れていくことが求められます。さらにチャレンジする内容は個人

差があり、個人の保育計画を設定することが必要となります。

早期発見



さて、それでは、具体的に早期発見するための指標について見ていきたいと思います。例えば生後すぐに様々な反射が見られます。母乳を吸う為の吸引反射、手に触れると握る仕草をする把握の反射、両手で支えたと足を交互に動かす歩行の反射等です。これらの反射の有無を調べることで、障害が見つかる場合もあります。また、0歳から2歳までは発達に応じて段階的に模倣をします。例えば、舌を出す行為を真似したり、音声で「まんま」と発声すると、乳児が「まんま」と繰り返したりです。音声に関しては、最初乳児が発声できる音を真似すると、乳児がそれに答えてくれます。このような単純模倣が見られないときは、自閉的傾向がある時もあります。運動面でいえば、ある程度月齢が進むと、様々な物を指で指して「あーあー」と声を出す仕草をします。母親の目をみない場合もあります。これらはなんらかの障害を持っているのを早期発見するのに役立ちます。

また、発達に応じて、物事の永続性ができます。4ヶ月をすぎた頃、母親を認識し、母親が視界から消えても、母親が存在することを理解していくようになっていきます。母親不在の時に泣いたり仕草をみせるようになりますが、これらに無反応の場合もやはり、障害を疑うべきでしょう。永続性を獲得していく時期から、手のひらから顔がでたりする「いないいないばあー」を喜ぶ様子が見られるようになりますが、これに対して無反応の子どもも同じことがいえます。

加えて、8ヶ月くらいから、人見知りが出始めます。他人に対して全く人見知りしない子は、一見社交性があるように見えますが、これも問題がある場合があります。

言葉について見てみましょう。自閉症児は言葉が出てこない特徴を持っています。それとは別に例えば、犬を見て「わんわん」猫をみて「わんわん」と言うことは、犬と猫の特徴が似ているので、なら問題ありません。しかし、全く別のもの、特徴が似ていないものに「わんわん」と呼ぶ時も認知の問題が考えられ、注意が必要です。

12ヶ月以降の乳児では、今までの単純な模倣から、次第に組織的な模倣へと発達していきます。年齢に応じた模倣活動をよく観察して比較することは早期発見に大変役立ちます。

保育の仕方（行動分析応用）

それでは、そのようなチャレンジ教育の特徴を持っている子はどのように接して保育を行っていけば良いのでしょうか。

行動分析応用（Applied Behavior Analysis）、を見ていきましょう。以下略してABAと明記します。例えば、攻撃的に叩く・蹴る・噛む等や、頭を壁に打ちつける自傷行為、また、不適切な時に笑ったり、目を真つすぐ見ずに常に周辺を見たり、クラスから逃げ出したりと、不適切な行動をする園児について考えてみましょう。まず、必要なことは、その園児の詳細を観察することです。どのような時に不適切な行動をするのか、不適切な行動はどのようなものか、これらをよく観察することから始まります。そしてその理由を考えます。例えば、その園児にとって、保育室の環境が明る過ぎる、環境の情報が多過ぎる等です。そしてその子の行動を予想して、先に保育者が介入していくことが必要となります。

詳しくみていきましょう。まずは第一に問題のある園児の観察です。遊べないことで攻撃的なのか、光が多過ぎるのが問題なのか、それとも保育中の言葉を別の意味で解釈しているのか等です。

次にそのような状況の時にどのような行動をとるのかを観察します。子どもが痙攣を起こすのか、暴力的になるのか、けいれんするのか、自傷行為をする等です。

そして、結果、どうなっているのか、例えば友達から仲間はずれになっているのか、まずは問題のある行動を観察してみましょう。

クラスでの問題行動は主に以下の4つに分類されています。

①.注目欲求

駄々をこねる。痙攣。泣き続ける。

②.逃避

保育室から逃げる。隠れる。

③.他の行動

不適切な時に笑う。かじる。痙攣。

④.自己刺激

手を振る。頭を打つ。真つすぐみずに周辺を見る。

さて、教諭はこのような子どもがクラスにいる場合、2つのことを実施していく必要があります。問題行動をする前に行う、先を見越した先見の対応と、問題行動後に行う反応です。

先見的な対応

この対応は問題行動が起きる前に対応する方法です。例えば、①の注目するために引き起こす問題行動では、問題行動をする前に、その子の良い行動だけを強化するよう褒めてあげます。②のクラスから逃げる子についてはクラスでのその子の保育スケジュールを見直し、発達に応じた保育を心がけます。③の行動についてはトークンエコノミという方法（以下に明記）であったり、良い行動だけ強化するために褒めるようにします。④の場合は感覚ダイエツトと呼ばれる方法を実践してみます（以下に明記）

問題行動後の反応

次は問題行動をした時にはどうすれば良いのかみてみましょう。注目欲求が原因で問題行動をした場合は先生は子どもから背を向けます。そして、口調を変えずに接することが大切です。注目すると、また注目されたいがために、同じ行動をするようになるからです。問題行動後はその行動を繰り返さないように対策を考えることが大切だといえます。行動を繰り返さないようにするために以下の強化の原理を実践してみてください。

強化

さて、良い行動を強化するにはどうしたら良いでしょうか。まず、強化するときは前向きな姿勢で取り組みましょう。言葉で褒めることはもちろん、好きなおもちゃ、玩具、遊びを取り入れて良い行動を促してあげることが大切です。強化をより一層効果的にするには、以下のことを覚えておってください。

- 強化は良い行動の時だけ行う。
- 強化は子どもが行動した直後に行う。
- 一貫性を持たせる。今日だけして明日にはしないようではすぐに元に戻ります。
- 徐々に変化していきます。

強化する手段



プロンプト (Prompt) と呼ばれる方法は、先生が先に身体で合図をして、同時に言葉で褒める強化の手段です。例えば手を洗う時に、

「最初に石けんをつけるのよ」と子どもに寄り添います。その行動をしている時に「そうそう、上手ね」と言葉でも強化する方法です。靴を履く時も先生が手を添えてあげ、「こうして、こう履くのよ、そうそう上手ね」という具合です。

トークンエコノミ (Token Economy) と呼ばれる方

法も見てみましょう。不適切な時に笑う子や、他人を囁む子に対して行います。これは良い行動をした時にご褒美をあげて強化する方法です。例えば、朝に挨拶が出来た場合にはご褒美のシールを貼ります。それが何枚かたまと、お菓子がもらえる等のやり方です。

感覚ダイエツト (Sensory Diet) も見ていきましょう。

これは上記に示した、自己刺激を行う子どもに対して有効なやり方で、これは主に神経を落ち着かせる時に行います。箇条書きでご紹介します。

前庭神経に関するもの

『ロッキングチェアー・走りかけ回る・ダンス・ブランコ・小さなトランポリン・床に横になって天井を見る』

固有感覚に関するもの

『大きいボールでキャッチボール・乗馬・粘土遊び・毛布の中にもぐる・背中を強めにマッサージ・鉄棒・椅子や机の掃除・クライミングロープ』

口の運動も神経を落ち着かせるには効果的です。

『シャボン玉・タオルを噛む・チューイングガム・ポップコーン等の食べ物等』

触覚に関するもの

『タオルで体をこする。砂遊び・水遊び等』

行動消滅

上記のような強化の手段には、プロンプト、トークンエコノミ、感覚ダイエツトの方法をご紹介しました。不適切な行動が消滅したら、強化することは必要なくなります。また、消滅したはずの不適切な行動がまた見られるようになったら、上記同様に強化の理論を取り入れてあげてください。今度はより短い期間で消滅するでしょう。

ABAの目的は、良い行動を強化して不適切な行動を消滅させていくことです。子どもの不適切な行動と良い行動を強化の原理を使用して、うまく交換してあげることが大切です。皆さんのクラスにも同様の不適切な行動をする子がいましたら、その子をよく観察して、子どもが不適切な行動をする前に、先見的な対応をしてあげ、問題行動時には強化の原理で良い行動のみを褒めてあげましょう。

第18回夏季 ピアジェ研修会ぺたぺたシールあそび教材の実践発表



「実践発表について」

日本ピアジェ会 研究員 大石 富士子

各園のぺたぺたシールあそび教材の実践発表は、毎回現場の先生方にとって実際の保育に役立つ豊富な内容で今回も大変勉強になりました。子どもの興味を引きつける導入方法も多様で、ひとつの単元でも様々な角度から導入を考えて実践されている園もあり、子どもの「考える力」を育む創意工夫された環境とは何かを深く考えて取り組まれている先生方の情熱が強く伝わってきました。目標にそって考えて作った教材を子ども達に指導した後、職員全員で熟考して改善して教材を作り、発表して下さった園もあり、日頃からこつこつと継続的に研究を積み上げておられる様子は本当に素晴らしいものと痛感しております。教材の操作経験を子どもの遊びや生活に適應させて子ども自身がどんどん新しい課題にチャレンジしていける環境作りを心がけていきたいと思います。

今回もお忙しい中発表にご協力頂きました各園の園長先生はじめ先生方、本当にありがとうございました。今後もご協力をどうぞ宜しくお願い致します



あおば幼稚園	発表者：黒野 公美
年長編単元① なぜ、そうなるの？	目標：因果関係
ねらい：幼児は物事を結果論的に判断しますので、「どうして、そうなるの？」という疑問から原因を考えていき、事柄と事柄の結びつきや、「～だから～である」というように原因と結果を結びつけて考えていきます。	



導入ではこぶができていた男の子のペープサートを見て「どうして泣いているのか」「どうしてこぶができたのか」原因について話し合いました。

原因・結果のヒントとなるペープサート（サッカーボール、はち、自転車等）を出し、話し合った後、原因となるペープサートを選びどうしてたんこぶができたのか考えた事を発表しました。こぶができた男の子はそれからどうなったのかを推論して発表し、お話が広がっていくおもしろさを経験できていました。

「だからどうなったの？」「そして」というようにお話が続くような言葉がけをし、事柄と事柄の結びつき、関係づけを言葉をつないで発表できるように導いておられました。

応用では、人形劇遊びをした「おおかみとしちひきのこやぎ」を題材にグループでお話し作りを楽しんでいました。

人形劇遊びではひとりひとりが役になりきり、表現力豊かに取り組んでいる様子が伺われ楽しい体験からどんどんイメージが広がり、子どもらしい自由な発想でお話が展開していき、いきいきと楽しく言語発表している姿に年長組らしい成長を感じました。

誠心第一幼稚園	発表者：坂上 のどか
年長編単元⑤むしのおみせやさん	目標：中間概念の発見
ねらい：bはaより大きいけれど、cよりも小さいといった中間の性質を発見することによって、少しずつの変化に気づき、連続的思考が芽生え、小から大へ、または大から小へといった系列も可能となります。	



子ども達が興味を持つ宇宙に行く設定で導入を行い、まずロケットを出して「高さ」が違う事を発見しました。どうすれば高さを比べられるかを話し合い、下を揃えて置けば良い事に気づき、高い順に台の上にのせました。高さには「高い」「低い」だけではなく「中くらいの高さ」がある事を確認しました。

次にロケットに乗る男の子の背の高さ比べをし、背の順に並べて高い・低い・中くらいの背の高さの男の子がいる事に気づき言語発表をしました。

男の子がロケットに乗って宇宙に出発し、だんだんと見えてきた星の大きさを比べて「中くらいの大きさ」があると発見した後、他に違うところがあるかを話し合い、「色の濃さ」が違う事に気づきました。色には「濃い」「うすい」だけではなく「中くらいの濃さ」があることを確認しました。

応用では園庭にあるたくさんの木を観察し、どんな事を感じるか、どこか違うところはあるかを自由に考えてみました。葉っぱの色や大きさ、木の高さや太さ等に違いがあることを発見し、それぞれに「中くらいの」色の濃さ・大きさ・高さ・太さがあることに気づき言語発表していました。それぞれの違いを子ども達自らが気づくように丁寧な言葉がけがなされていました。

遊々保育園	
年長編単元⑩ みつばちジュースはいかが？	目標：量の相補的關係
ねらい：量を系列したり、逆系列、逆二重系列の操作を通して量の保存による相補的關係について理解していきます。加法、減法、合成分解、反比例、論理的判断、その他の推理にも適応しています。	



導入①では半立体教材の親子の猫を使ってお母さん猫とカゴの中に分けていき、全体数を「3」とした時の数の関係性について考えました。操作後、整理シートを使って確認する事により、一方は増えて一方は減るが、全体の数は変わらないという相補的な関係がよく理解できていました。

導入②では全体数を「5」に増やし「おむすびころりん」のおじいさんが持っているおむすびの数とねずみの家にあるおむすびの数の関係性を考えました。整理シートを使って見やすく操作できた事で、全体数も変わっていない事にも着目できていました。

導入③では立体教材のケーキを使って全体数を「6」とした時の関係性について考えました。一方のケーキの数ばかりに着目する子どもも整理シートで確認する事により全体を理解する事ができていました。

応用ではありさんがありの巣に帰っていく数、遊んでいるありの数の相補的關係について「5」の数のシート「7」の数のシートで考え、理解を深めていきました。子ども達が興味を持ち理解しやすい様に順を追った段階を追った丁寧な指導を発表して下さいました。

鴻池学園幼稚園	発表者：木下舞香 笠松あい
年中編単元②おまつりひろば	目標：３種類の集合作り
ねらい：色や動物の特徴に注意して共通の性質を見つけ、集合を作っていきます。着眼点によって集合の方法にもいろいろあることを発見します。	



今回の実践発表は園内の研究保育で作成した教材で保育を行い様々な角度から再検討し、再度教材を作り直した様子を発表しました。

導入では登場した動物の特徴について話し合い、くま・うさぎ・ぞうの種類に目をつけて分類し、どのように仲間集めをしたのかを言語発表できるように導き、その後動物が着ている服の色に着目し赤・黄・青のシートの色を見て分類しました。

次に服のマーク（♡・○・☆）の違いに気づき3つのバスにどのように仲間集めをしたら良
いかを考えて、操作・発表を行いました。

改善後の教材では、マーク（ヒント）は貼らずに子ども達の状況を見て外したりつけたりできる工夫がされており、またストーリーや場面転換での工夫も一層興味を引く内容を考えておられ、日頃より教材研究を深めておられる様子がとても良くわかりました。

応用では2歳児、年少、年中、年長児が「片付ける行為」をどのように認知しているかを発表して下さいました。子どもの発達の特徴がとても良くわかり、年長児になると、大きさ、色、種類、系列等を考慮に入れて総合的に片付けられる姿が観察されていました。



マリー・ホール・エッツ作 たなべいすず やく

文学紀行NO.29

「車が好き！～生まれつき好きなのか？～」

児童文学研究家 石川 晴子

今回ご紹介します絵本はマリー・ホール・エッツ作 たなべいすず やく 「ちいさなふるいじどうしゃ」です。生まれつき車が好き、とか恐竜が好き、としか思えないような人がいます。生まれてまだ1年とか2年というあかちゃんでも、はっきり車が好き、電車が好きでくわしいことをしりたいと本を読む姿を見ると人の好みは生まれつき決まっているのかと思ってしまいます。

「ちいさなふるいじどうしゃ」は、丘のてっぺんで「まっててくれよ」といわれたのに、「いやだ！じっとしてるのなんかいやだ！」と丘を駆けおりていきます。とちゅう、道にいたカエルやうさぎ、おまけに牛までも、「いまどきますから、まってください」といわれたのに、けっとばしてかけていきます。

最後にどうなったか？思いがけない結末をむかえます。古い本ですから図書館などで探してみてください。裏切られない、おもしろい本です。



マリー・ホール・エッツ作の「ちいさなふるいじどうしゃ」の舞台になった風景らしきものを描いてみました。



「ちいさいきかんしゃ」ロイス・レンスキー ぶん・え
わたなべしげお やく 福音館書店

とくにちいさい人たちが楽しんで読む（もちろん文字がよめないなので、読んでもらうのですが）のりものの絵本をいくつかあげてみました。



「ちいさいしょうぼうじどうしゃ」ロイス・レンスキー ぶん・え
わたなべしげお やく 福音館書店





「ちいさいひこうき」ロイス・レンスキー ぶん・え
わたなべしげお やく 福音館書店



のりもの好きは、なぜか男の
子が多いように思われますが、
ほんとうは、女の子も好きか
もしれません。



飛行機のメカニズムや操
じゅうのしかたがわかり
やすく、きちんと説明さ
れているので、大人でも
なるほどとうなずきつつ
読める本です。



「ちいさいじどうしゃ」ロイス・レンスキー ぶん・え
わたなべしげお やく 福音館書店





ピアジェ研究所

学校法人 鴻池学園第3幼稚園敷地内

〒573-0104

大阪府枚方市長尾播磨谷1-4051

Tel 072(855)3777 Fax072(855)3779